

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長	板倉 寿恵美	担当者名	下杉 陽介
-----	------------	----	--------	------	-------

取組事例名 『目標をめざしてチャレンジしよう』

生徒指導に係る連携体制の確立	○	カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話	主体的な活動を通じた絆づくり
----------------	---	------------------------------	----------------

取組における育てたい資質・能力

○「妨げ」を自覚し，多面的・多角的なとらえ方で「妨げ」を克服する自己指導能力

取組のねらい

・「妨げ」は様々な場面で存在することを自覚させ，それを克服する手立てを考え，目標に向かって自律して行動する。

取組の具体的内容

取組の創意工夫

名文課題の暗唱に全校でチャレンジ
 古典，現代の詩歌，小説等 30 の作品の中から，課題文を選定し全校児童に配付している。児童は，課題の中から作品を選び，自主的に練習を行い，休憩時間に職員室を訪ね暗唱にチャレンジする。指導者は，合格者の冊子に印を押し，合わせて達成状況を廊下に掲示する。全作品の暗唱に合格した児童には，賞状を渡して表彰し，さらなる発展課題に取り組ませている。



暗唱ができるようになるためのプロセスは「練習方法を工夫して取り組む」「児童同士で練習し合う」「助言し合う」など多様にある。熱心に取り組む児童の姿が毎日見られ，全校で意欲的に取り組むことができた。暗唱の苦手な児童もいるが，「妨げ」を自覚し，一人一人が自分に合った練習方法を見つけながら取り組み，「意志力」の向上につながる取組になっている。「チャレンジを職員に依頼する」「相手を意識して話す」「謝意を伝える」など，適切なコミュニケーションスキルを学ぶ機会にもなった。



「あいさつ」「靴そろえ」等，表彰活動
 重点取組を設定して呼びかけを行い，日々の状況を記録し，学期ごとに表彰を行う。メダルや賞状による表彰及び学校だよりによる公表により，前向きに取り組む動機づけになっている。

コロナ禍により，元気な挨拶が難しい期間もあったが，「会釈をする」「ドライバーへの謝意を伝える」など，多様な挨拶の形を考え，実践することができた。下校中，怪我をした児童を手当し，学校や家庭，地域への協力を，児童が的確に判断して対応した事例があった。感謝状を発行して高く評価し，全校で紹介するなどした。

組織的な対応による「特別な指導」
 問題行動が発生した場合，速やかに管理職に報告し，生徒指導委員会により指導方針について協議し，組織的に指導に当たった。

指導者の多弁は避け，自身を振り返らせる指導を意識して取り組んだ。考えを言語化し，整理させるため，必要に応じて文章等で記述させ，課題改善，成長に向けた見通しをもたせることを支援した。

取組の成果と課題

児童の自己評価アンケート（11月実施）では，「目標を達成するために，具体的な手立てを考えて取り組んでいる」という項目で94%の児童が，自身を肯定的に捉えている。今後も，育てたい資質・能力を明確化し，学校行事や活動の見直しを進め，児童が自身の課題に向き合い，目標の達成に向けて具体的な手立てを設定して取り組む，学びのサイクルを確立させていきたい。